

# 勝山大用水

福井県の東部に位置する勝山市を流れる勝山大用水は、九頭竜川を水源としており、約 180ha の農地をかんがいしています。

今から約 300 年前、江戸時代(享保のころ)に、飲料水や田畑のかんがい用水確保のため、九頭竜川に入口を作り(現在の下荒井橋付近)、水を引いたのが勝山大用水の起源です。

水路沿いの村々が協力して水を導き、運用や維持保全にあたっては、関係ある村々で幾度も調整を繰り返して決めていたため、「立合用水」とも呼ばれています。



昭和 32 年 (1957 年) には、同じ取入口から勝山市の北東側にも水路が引かれ、新用水、旧用水と称されています。

享保のころより、田畑のかんがいだけではなく、飲料水、防火用水、浄化用水、消雪用水として地域の方々の生活に密接して役立てられていました。

約 300 年経った今も変わることなく、人々に豊かな実りと潤いをもたらせています。